

7 授業分析会の様子

参観の視点より

ハンドサインを使うことによって、相手の意見を聞き、自分の考えを表現し、全体の考えが深まったか。

座席表を使つての意図的指名は、ねらいに迫るために有効だったか。

- 同じ・ちがう意見の意思表示になる
- 自分の意見に自信がつき、ハンドサインをすることで、自分の意思表示ができる。
- 友達の意見を知り、聞くことに有効である。
- 誰に対してどの意見に対してのハンドサインかを明らかにできたらしい。
- 主発問に対する考えはまとめ書きにするといい。
- 多様な意見を得るために、グーを出している児童を続けて発表させるとよかった。
- ハンドサインが出せない子、途中で価値が変わる子への支援はどうしたらいいか？

- 座席表を使うことによって
- 分類し、考えを深めることができた。
- 授業の組み立てがよく、ねらいに迫ることができた。
- 表現の場が保証できた。
- 価値の類型化をしつつ、個への支援はできていたか？
- 切り返しの発問をする際に、有効活用すべき。
- 価値に迫るために、意図的指名をする際、さらなる座席メモの工夫が必要。
- 挙手をさせつつ、意図的指名をするべき。

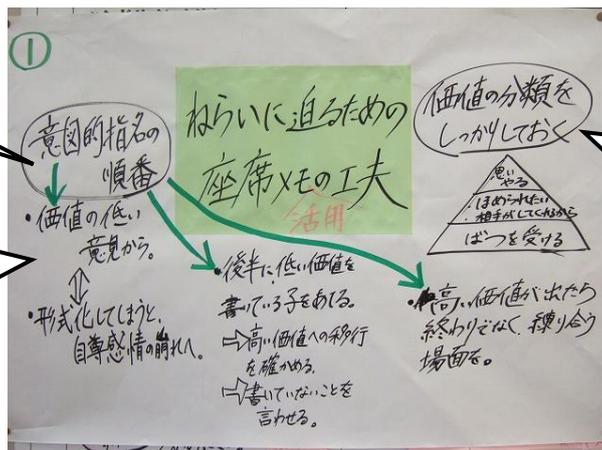
討議の柱

ねらいに迫るための座席メモの工夫
(子どもの発言意欲、意図的指名も含む)

1 グループ

価値の低い意見から、意図的指名をしていく。

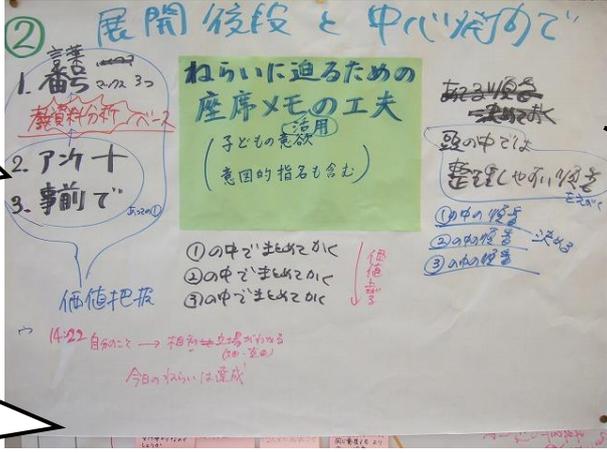
切り返しの発問により、考えが深まる。



高い価値が意見として出た場合は、みんなの考えを練り合う場面を作る。

アンケート、事前授業で、価値を把握しておく。

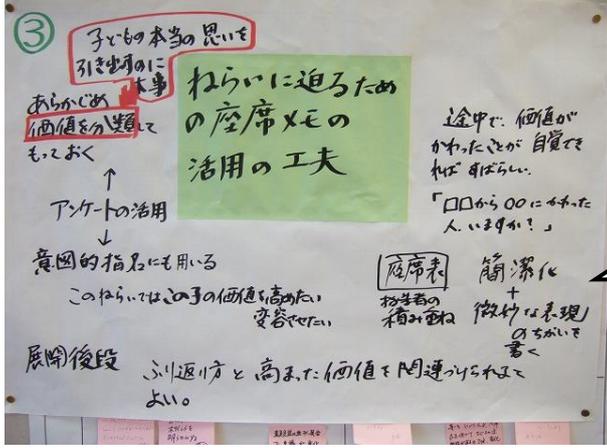
展開後段と中心発問で座席メモを活用する。



価値基準を決めておき、番号をつけておく。番号を座席メモに書く。

3 グループ

あらかじめ価値を分類して持つておき、意図的指名がしやすいようにする。



考えや価値が変わった児童を認めていく。

高まった価値に振り返りを関連づけられるといい。

今日のまとめ

座席メモは、価値に対する児童の実態、価値の分類、児童の変容などことができ、事前、事中、事後でも利用できる。

8 考察

【成果】

- ・ 本授業で使用した『たまちゃん、大すき』は、教材自体に魅力があり、子ども達を引きつけることができ、紙芝居形式の資料にしたため、長いストーリーの割には読み取りやすく、板書にも活用できたことが効果的であった。
- ・ 友だちの意見と「同じ」か「ちがう」か、をハンドサインで表す活動は3年生から取組始めた活動であるが、自分の意見を表明できるとともに、自分の意見と同じ友だちがいることを確認できる点で、自分の意見に自信が持て発言しようとする気持ちの後押しに力を発揮した。



- 座席表を使っの机間指導は、子どもの思考の傾向をとらえるという点では有効であった。あらかじめ、道徳的価値を基準に3段階程度に子どもの考えを予測しておくことで、ワークシートに子ども達が記入する7分間でほぼ全員の意見を把握することで後の話し合いに生かすことができた。

資料の読み聞かせを聞く子ども達



【課題】

本時では、いかに子どもの意見を引き出して高めていくのかを課題としていた。その点で、次のことが課題としてあげられる。

- ハンドサインについては、子ども達が自信を持って挙手することにつながり、授業への参加を促しが、ちがう意見の子どもを中心に指名したため、子ども達の経験や考え方の共有（追体験）が不十分になってしまった。同じ意見ももう少し丁寧に聞き合い、子どもが見つけたことを、みんなで見つめられるようにすることで聞く態度につなげていきたい。
- 座席表を使った机間指導では、子ども達の意見の把握には生かすことができたが、しっかり分類していく意味でも、座席表に価値基準を記入しておいたり、子どもの考え方や体験などをメモしていくことで、より座席表が生かされ話し合いが深められたのではないかと考えられる。特に、中心発問のまる子が『はっ』としたところについては、「あんなこと、言わなかったらよかった」という意見が多かっただけに、話し合いを深めるために切り返しが生かせるような書き込み必要であったと思う。
- 展開後段で子ども達の生活に返していったのであるが、もう少し自然に自分の生活を見つめ直せるようにできなかったかと考える。「友だちがいてよかった」ところを書かせることでふり返ったのであるが、まる子の体験とはつながらず鉛筆が止まってしまった子どももいたので書けた子どもからの意図的指名が必要であった。

